

業績推移 (単体情報)

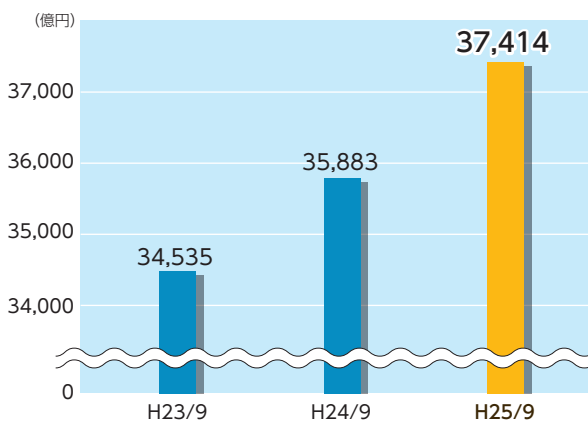
業績ハイライト

平成25年9月期の業績につきましては、預金や貸出金の残高が順調に増加しましたが資金運用利回りが低下したことにより、コア業務純益は、6億48百万円減少し122億23百万円となりました。一方、与信関連費用や株式関係損益が改善したこと等により、中間純利益は7億85百万円増加し79億87百万円となり、中間期決算としてはこれまでの最高益となりました。

● 預金残高

年間増加率4.2%!

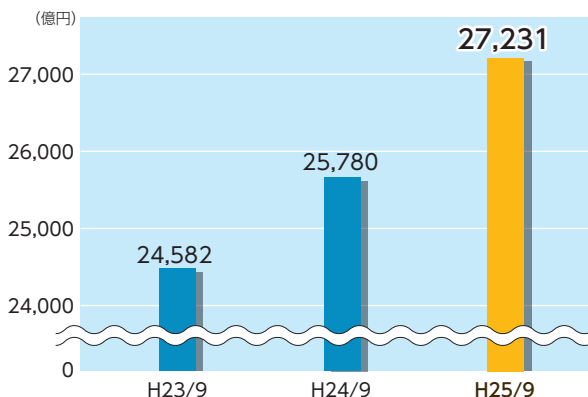
千葉県内の成長エリアを中心とする積極的な店舗展開や、お客さまの利便性・安全性を重視する各種サービスがご支持をいただいております。預金残高は前年同期比1,530億円増加し3兆7,414億円(年間増加率4.2%)となりました。



● 貸出金残高

年間増加率5.6%!

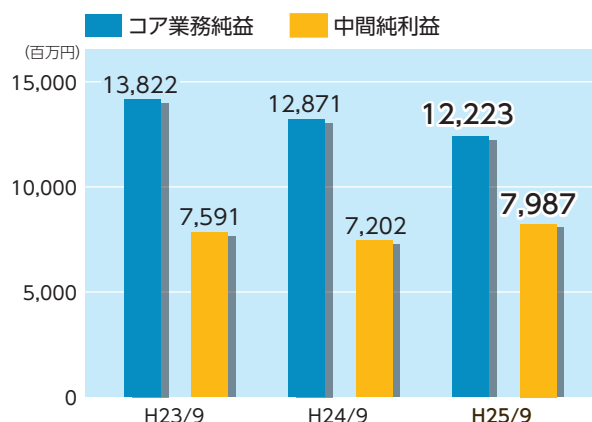
県内の中小企業向け貸出や住宅ローンを中心とした個人向け貸出の推進に積極的に取り組んだ結果、貸出金残高は前年同期比1,450億円増加し2兆7,231億円(年間増加率5.6%)となりました。



● コア業務純益・中間純利益

中間純利益は前年同期比7億85百万円増加し79億87百万円と過去最高益となりました。

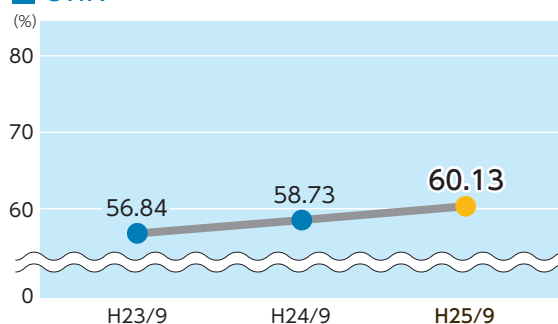
$$\text{コア業務純益} = \text{業務純益} + \text{一般貸倒引当金繰入額} - \text{国債等債券損益}$$



● OHR・経費率

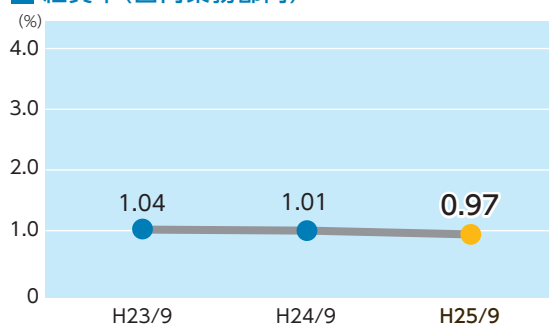
OHRおよび経費率は低い水準を維持し、効率的な経営を行っています。

■ OHR



$$\text{OHR} = \frac{\text{経費 (臨時的経費を除く)}}{\text{コア業務粗利益}}$$

■ 経費率 (国内業務部門)



$$\text{経費率} = \frac{\text{経費 (臨時的経費を除く)}}{\text{預金・譲渡性預金の期中平均残高}}$$

※OHRおよび経費率は、数値が小さいほど効率性が高いことを示します。

● 自己資本比率

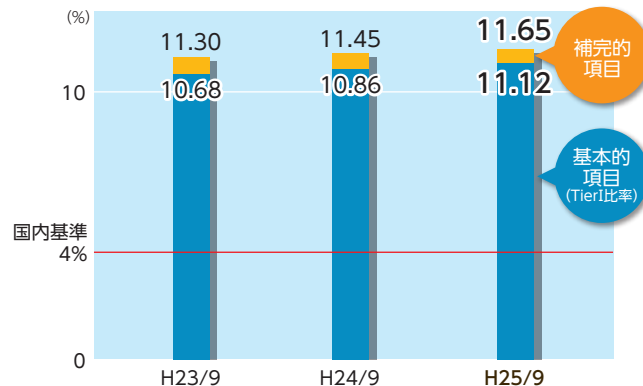
自己資本比率は11.65%であり、拠点を国内に限っている銀行の基準である4%をはるかに上回っています。また、基本的項目 (TierI比率) は11.12%であり、資本の質は極めて高い水準を維持しています。

● 基本的項目とは?

資本金・剰余金などの、本来の自己資本のこと。

● 補完的項目とは?

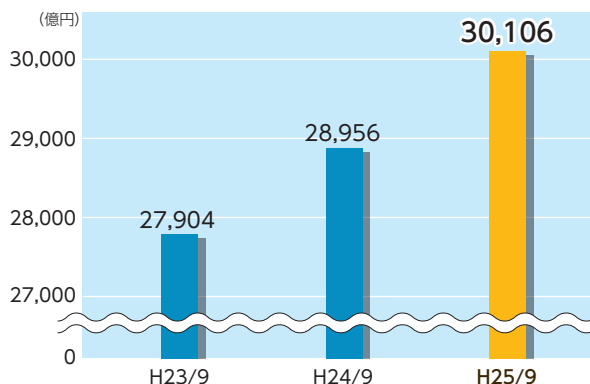
一般貸倒引当金・土地の含み益の一部など。



業績推移 (単体情報)

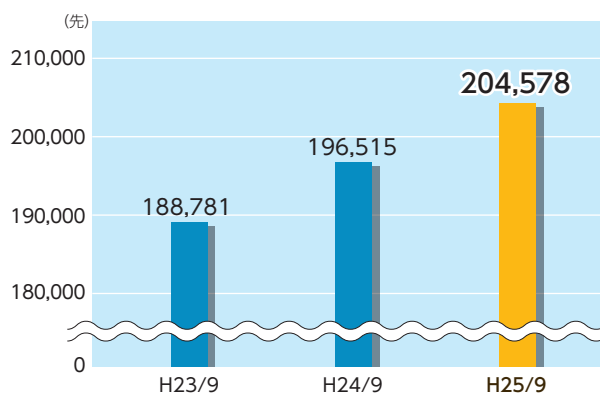
● 個人預金残高

年金受取指定先数および給与振込指定先数が順調に増加したこと等により、個人預金残高は前年同期比1,150億円増加し3兆106億円(年間増加率3.9%)となりました。



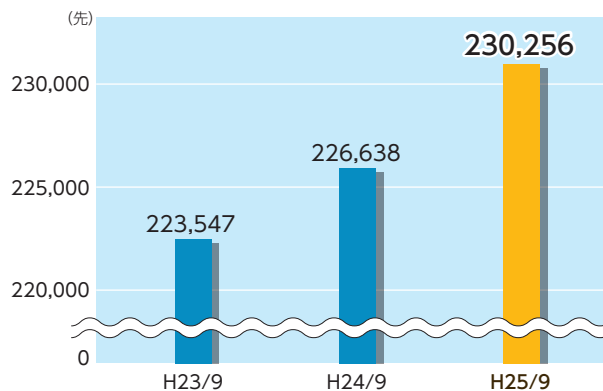
● 年金受取指定先数

社会保険労務士による個別年金相談会や年金セミナーを開催し、複雑な年金制度の説明や年金請求書作成等のサービスなどが、ご好評いただいています。年金受取指定先数は年間で8,063先増加(年間増加率4.1%)しました。



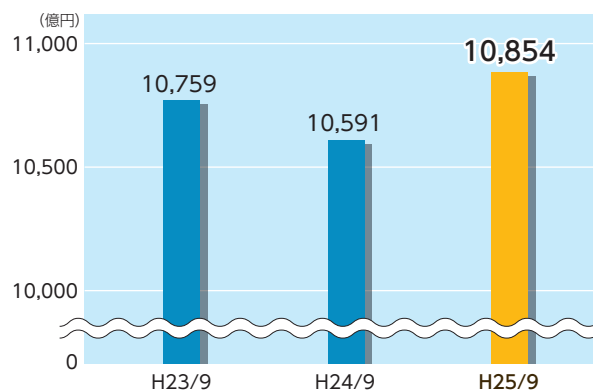
● 給与振込指定先数

住宅ローン等をご利用のお客さまを中心に給与振込のご指定をいただいています。また、若年層の方々に向けた、給与振込のキャンペーンも実施しています。給与振込指定先数は年間で3,618先増加(年間増加率1.5%)しました。



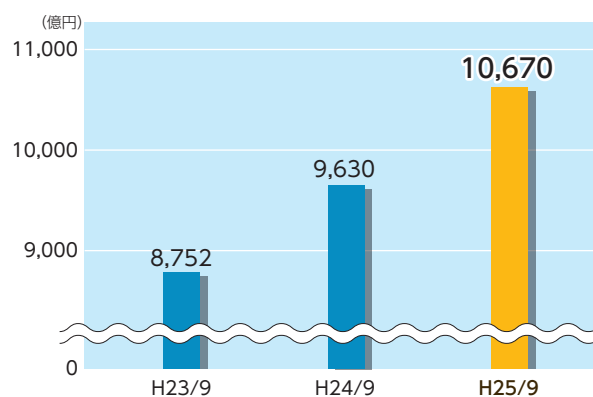
● 中小企業向け貸出金残高

中小企業の皆さまの資金ニーズに積極的にお応えした結果、中小企業向け貸出金残高は前年同期比262億円増加し1兆854億円(年間増加率2.4%)となりました。



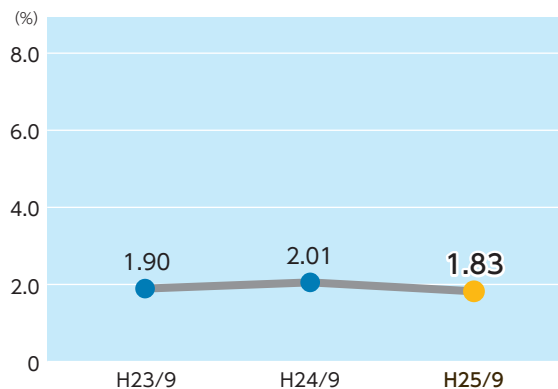
● 住宅ローン残高

お客さまの住宅資金ニーズに積極的にお応えした結果、住宅ローン残高は前年同期比1,040億円増加し1兆670億円(年間増加率10.8%)となりました。



● 不良債権比率(金融再生法基準)

金融再生法基準の不良債権比率(単体)は前年同期比0.18ポイント低下し1.83%となり、資産の高い健全性を維持しています。



※不良債権比率は、数値が小さいほど健全性が高いことを示します。